

DVに関するアンケート調査の結果について

人権男女・多文化共生課

I 調査概要

1. 調査の目的

平成30年度における「ぐんまDV対策推進計画（第4次）」の策定や、今後の施策立案の参考資料とするため、DVに関する県民の意識、実態、要望等を調査し、課題や県民ニーズを把握する。

2. 調査項目

(1) DVに関するアンケート調査

- ①性別 ②年齢 ③住んでいる市町村 ④DV加害・被害の有無 ⑤相談先
⑥相談しない理由 ⑦相談窓口の認定度

(2) デートDVに関するアンケート調査

- ①性別 ②年齢 ③デートDVを知っていたか ④デートDVについて理解できたか
⑤交際経験 ⑥デートDVの経験 ⑦どのようなデートDVを受けたか
⑧どのようなデートDVをしていたか ⑨相談先 ⑩相談しない理由

3. 調査設計

	(1)DVに関するアンケート調査	(2)デートDVに対するアンケート調査
① 調査対象	県が主催する講座等の参加者	県が実施するデートDV防止啓発講座の受講者（中学生、高校生、大学生）
② 回答人数	2,150人	1,754人
③ 調査方法	参加者へアンケート配布・回収	受講者へアンケート配布・回収
④ 調査期間	平成29年9月～平成30年3月	平成29年9月～平成30年3月

本書の見方

- ・回答比率（％）は、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位までを表示しているため、表示された回答比率の合計が100.0％にならない場合があります。
- ・グラフに表記される「N=※」（※は数字）は、該当質問の回答者数を表します。
- ・グラフにおいて、選択肢の文章が長い場合は簡略化して表示しているため、調査票の文章とは一致しない場合があります。また、グラフの値表示について、0の場合は非表示としています。
- ・グラフは、質問によって全体結果のみを示したものと男女別の結果を示したものがあります。

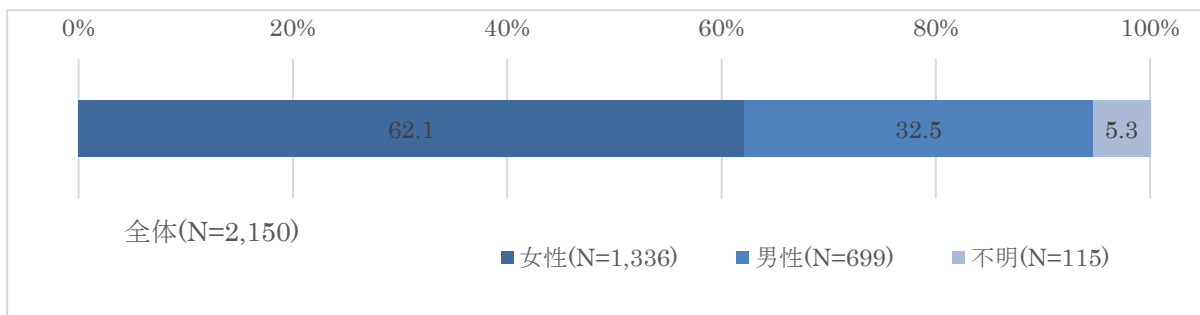
Ⅱ 調査結果の概要

1 DVに関するアンケート調査

1. 回答者の属性

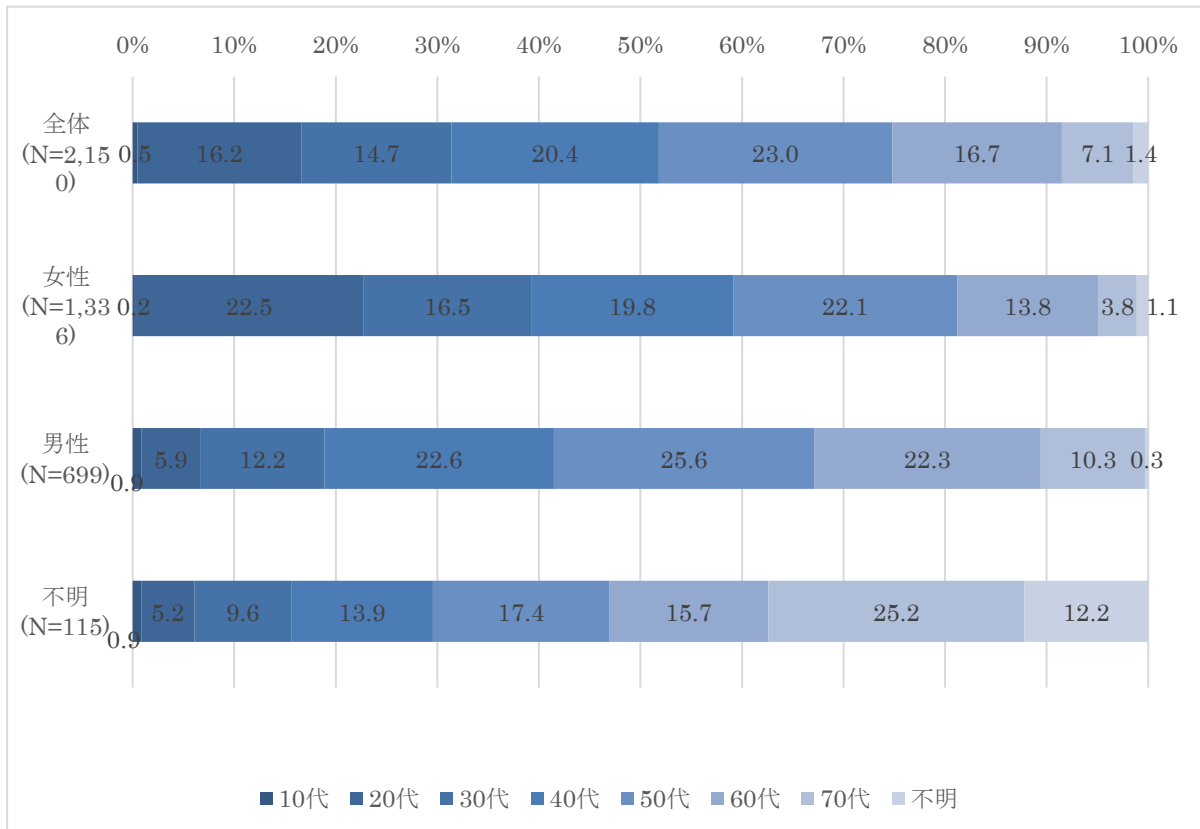
(1) 性別

●性別は、女性 1,336 人 (62.1%)、男性 699 人 (32.5%)、不明 115 人 (5.3%)となっています。



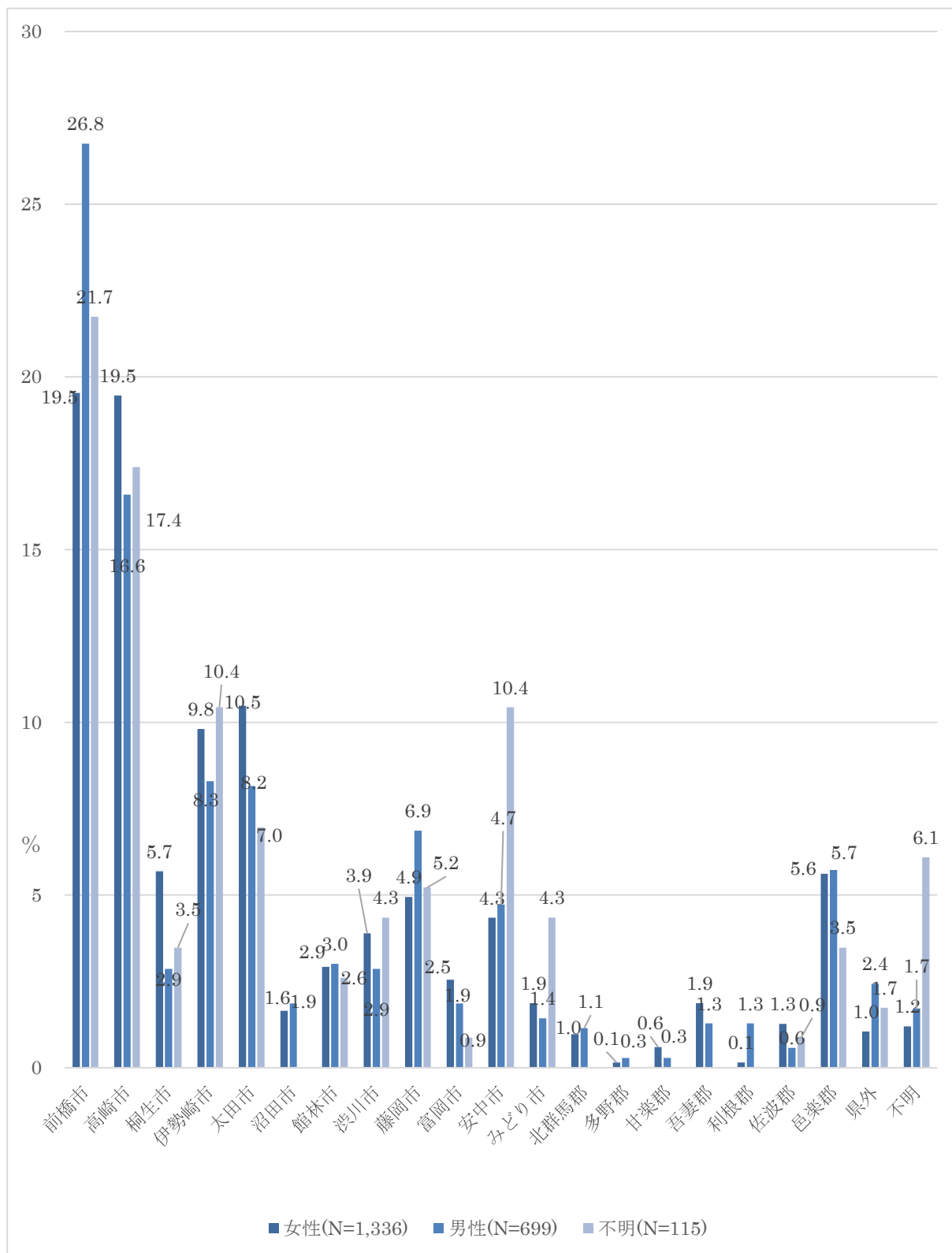
(2) 年代

●女性は 20 代 (22.5%)、男性は 50 代 (25.6%) が最も多く、次いで女性は 50 代 (22.1%)、男性は 40 代 (22.6%) が多くなっています。



(3) 居住市町村

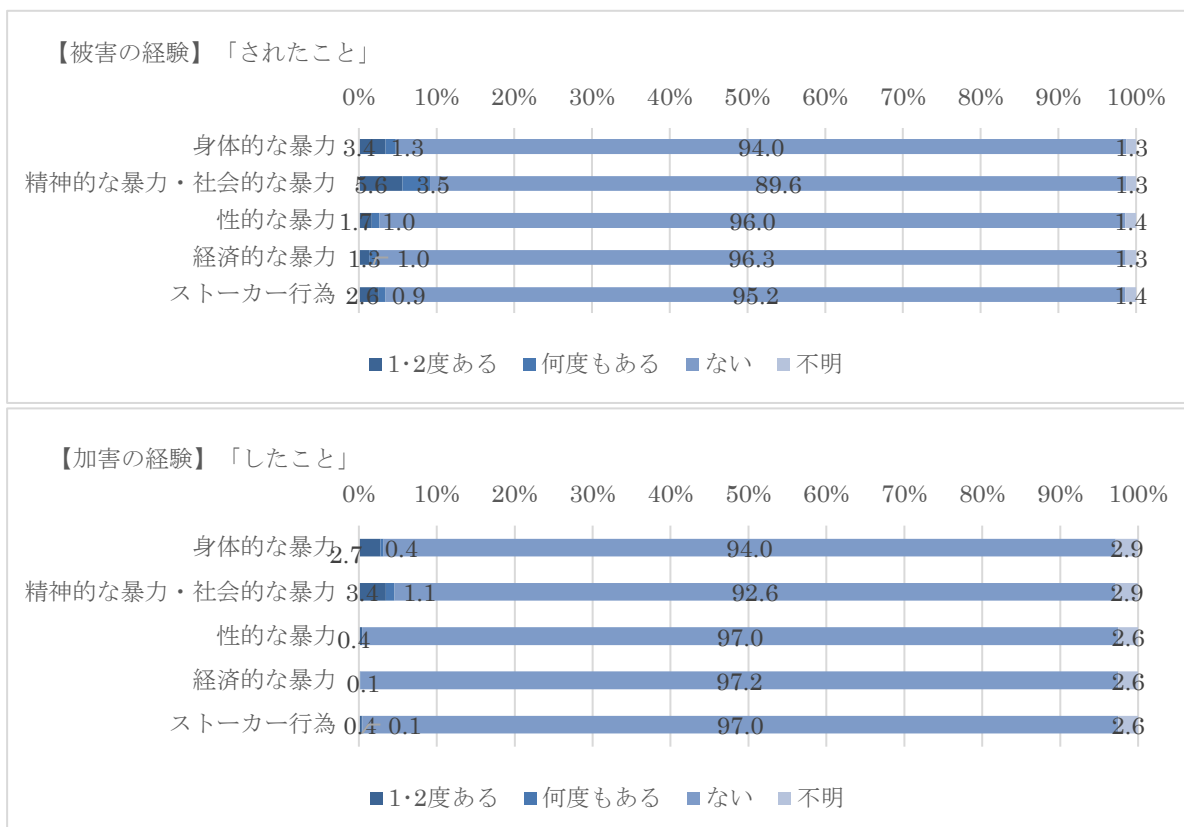
●女性は前橋市、高崎市（19.5%）、男性は前橋市(26.8%)が最も多く、次いで女性は大田市（10.5%）、男性は高崎市(16.6%)が多くなっています。



2. 調査結果について

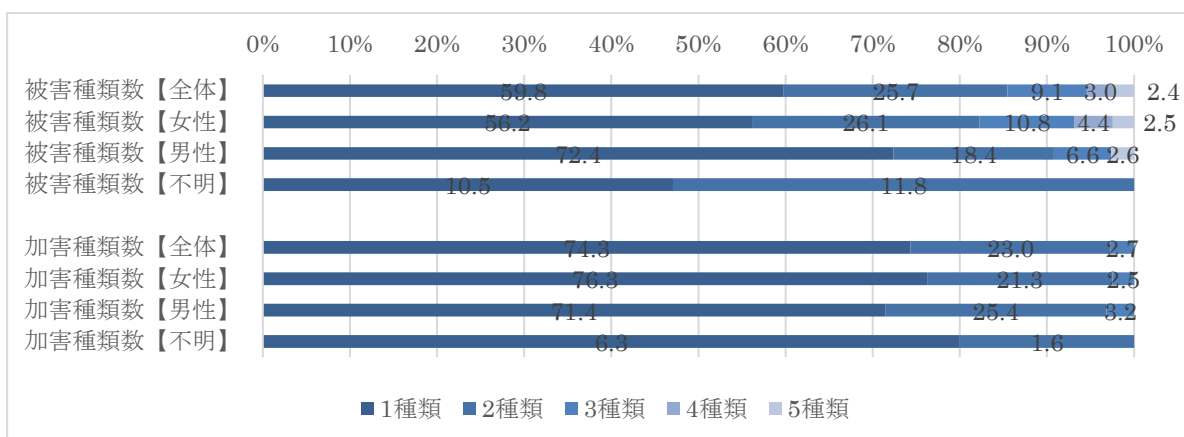
DV被害・加害経験（問4）

- DV被害・加害の経験ともに、すべての項目で「ない」がほとんどとなっていますが、その中で「精神的な暴力・社会的な暴力」は「ある」（「1・2度ある」と「何度もある」の合計 被害9.1%、加害4.5%）が被害・加害ともに最も高くなっています。



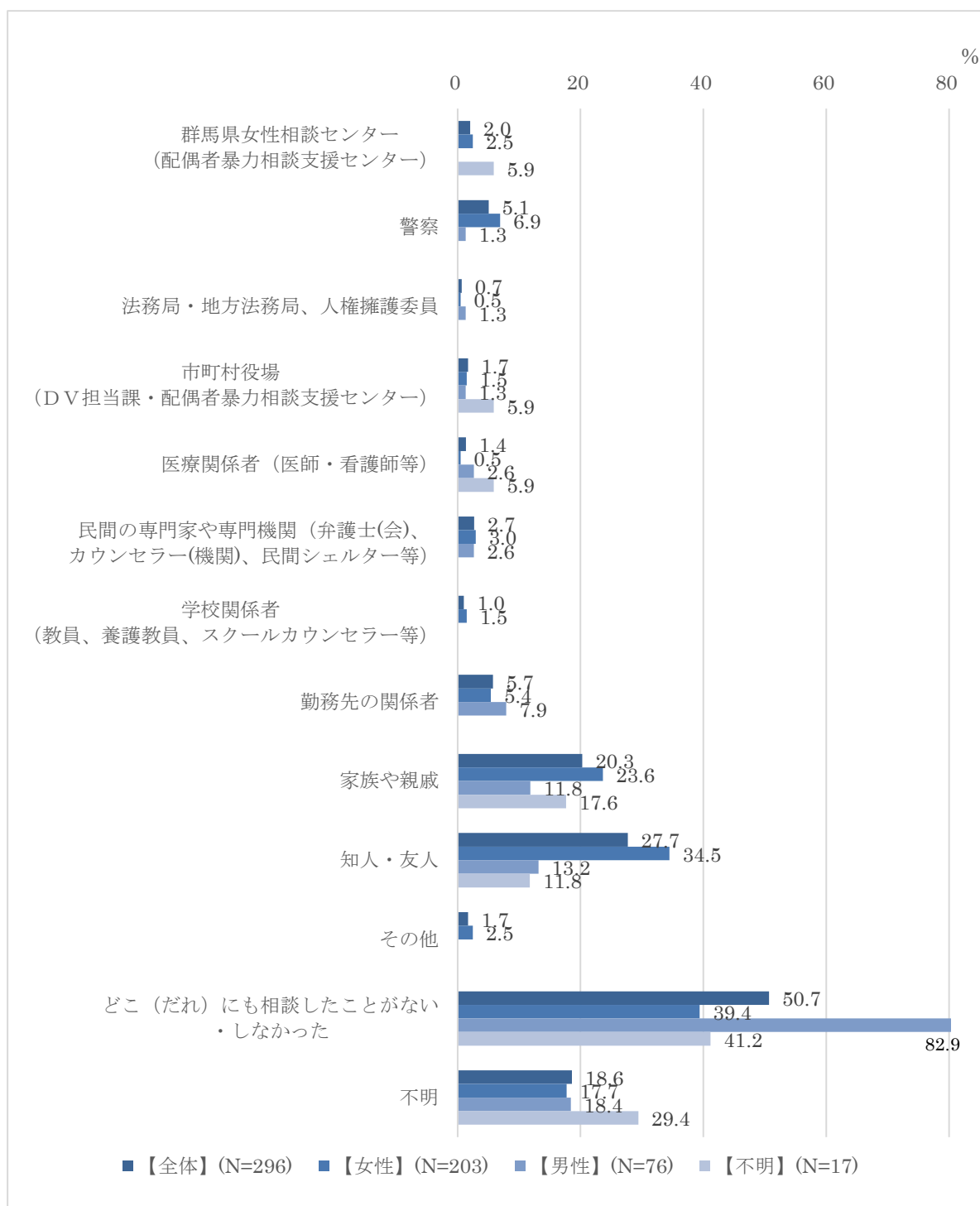
- 被害種類数は「1種類」（女性56.2%、男性72.4%）が女性5割以上、男性7割以上となっており、女性は3～5種類（17.7%）が合わせて約2割、男性は約1割（9.2%）見られます。

- 加害種類数は男女とも「1種類」（女性76.3%、男性71.4%）が男女とも7割以上で、男女とも「2種類」（女性21.3%、男性25.4%）、「3種類」（女性2.5%、男性3.2%）とも同程度となっています。



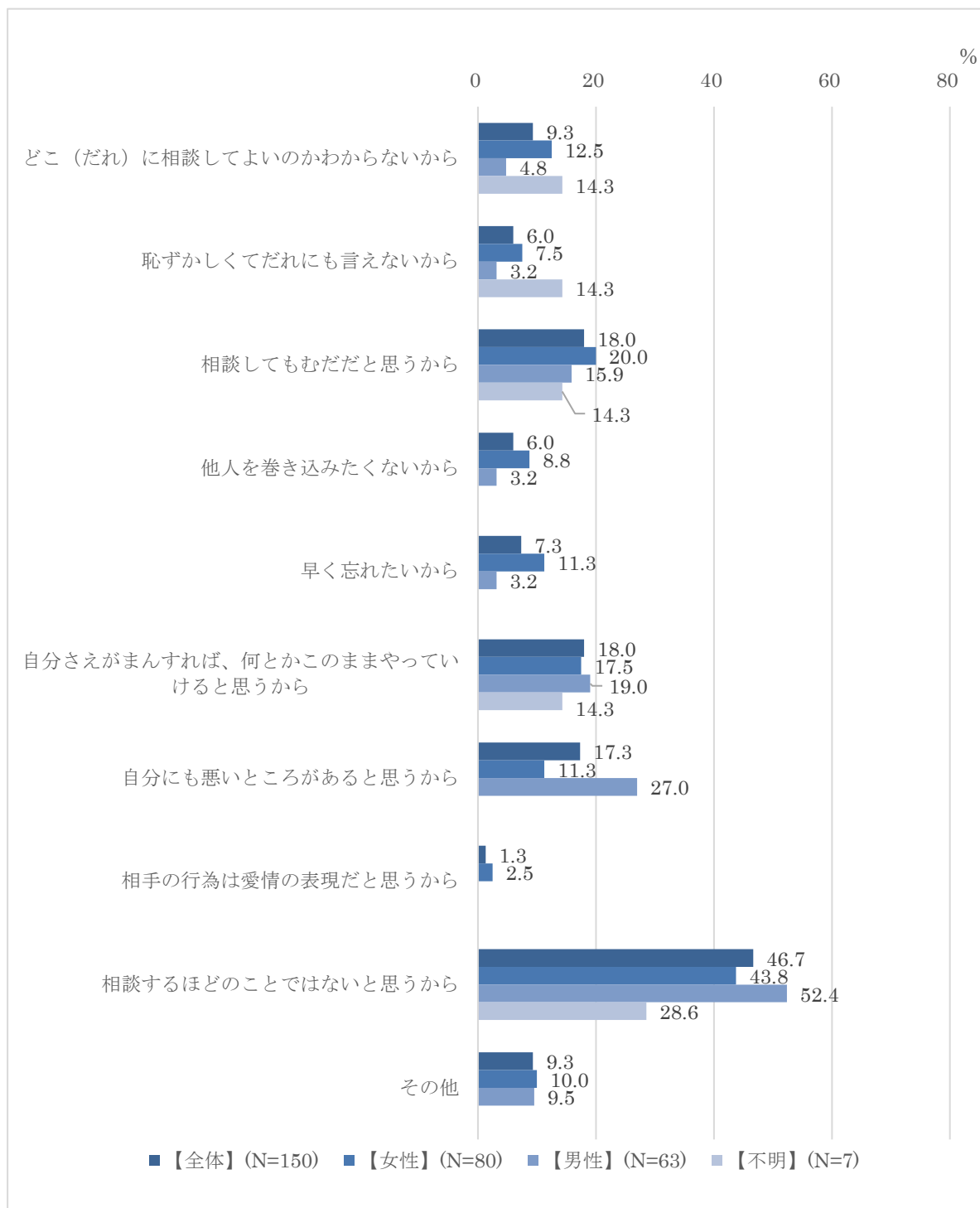
被害・加害経験についての相談相手（問5／複数選択可）

- 被害・加害経験時の相談について、男女とも「知人・友人」（女性 34.5%、男性 13.2%）、「家族や親戚」（女性 23.6%、男性 11.8%）の順に高くなっています。
- 「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」（女性 39.4%、男性 82.9%）が女性約4割、男性8割以上となっており、男性は被害・加害を経験しても相談していない場合が多いことがうかがえます。



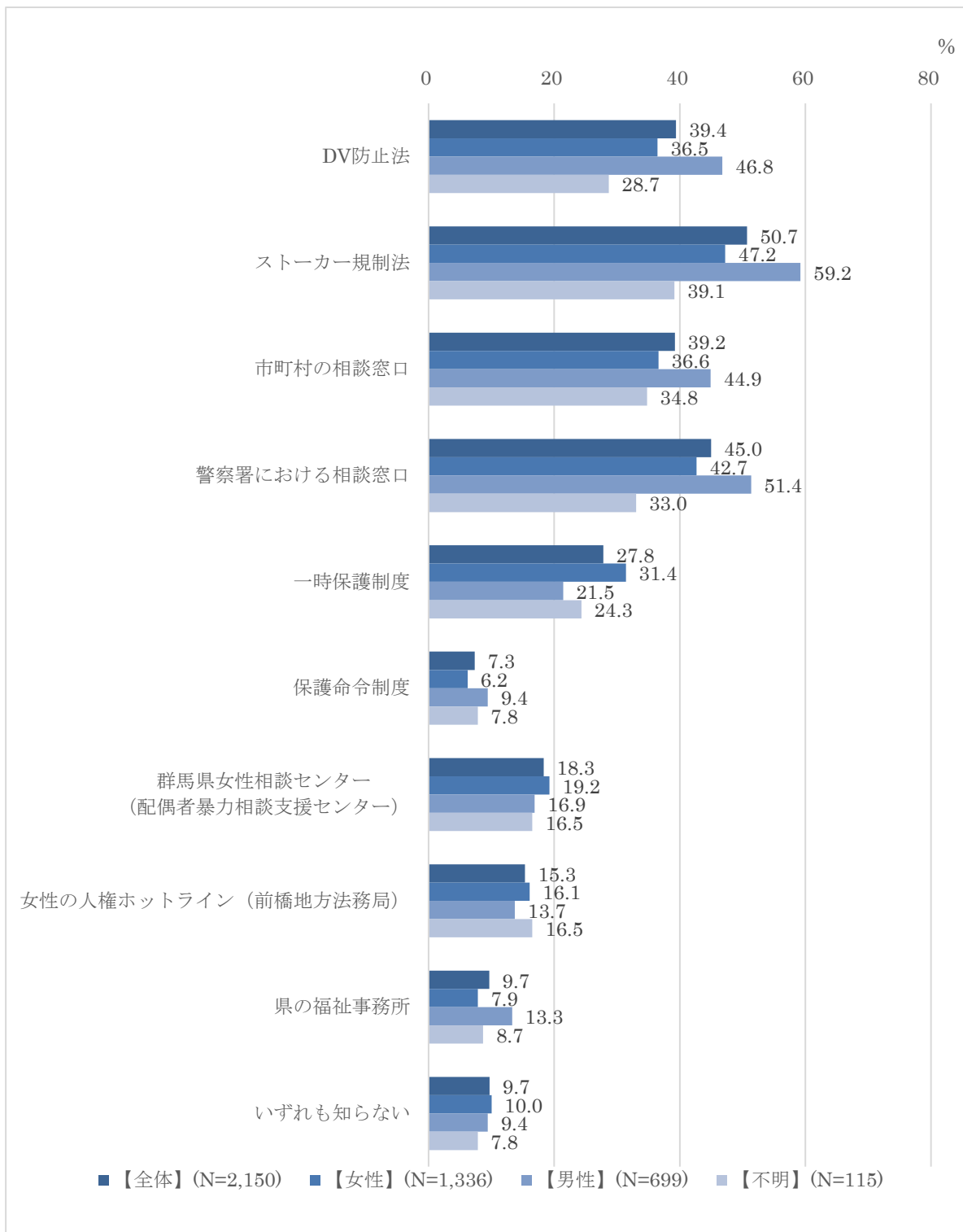
被害・加害経験について相談しない理由（問6／複数選択可）

- 「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」場合の理由について、「相談するほどのことではないと思うから」（女性 43.8%、男性 52.4%）が女性 4 割以上、男性 5 割以上となっています。次いで女性は「相談してもむだだと思うから」（20.0%）、男性は「自分にも悪いところがあると思うから」（27.0%）がそれぞれ高くなっています。



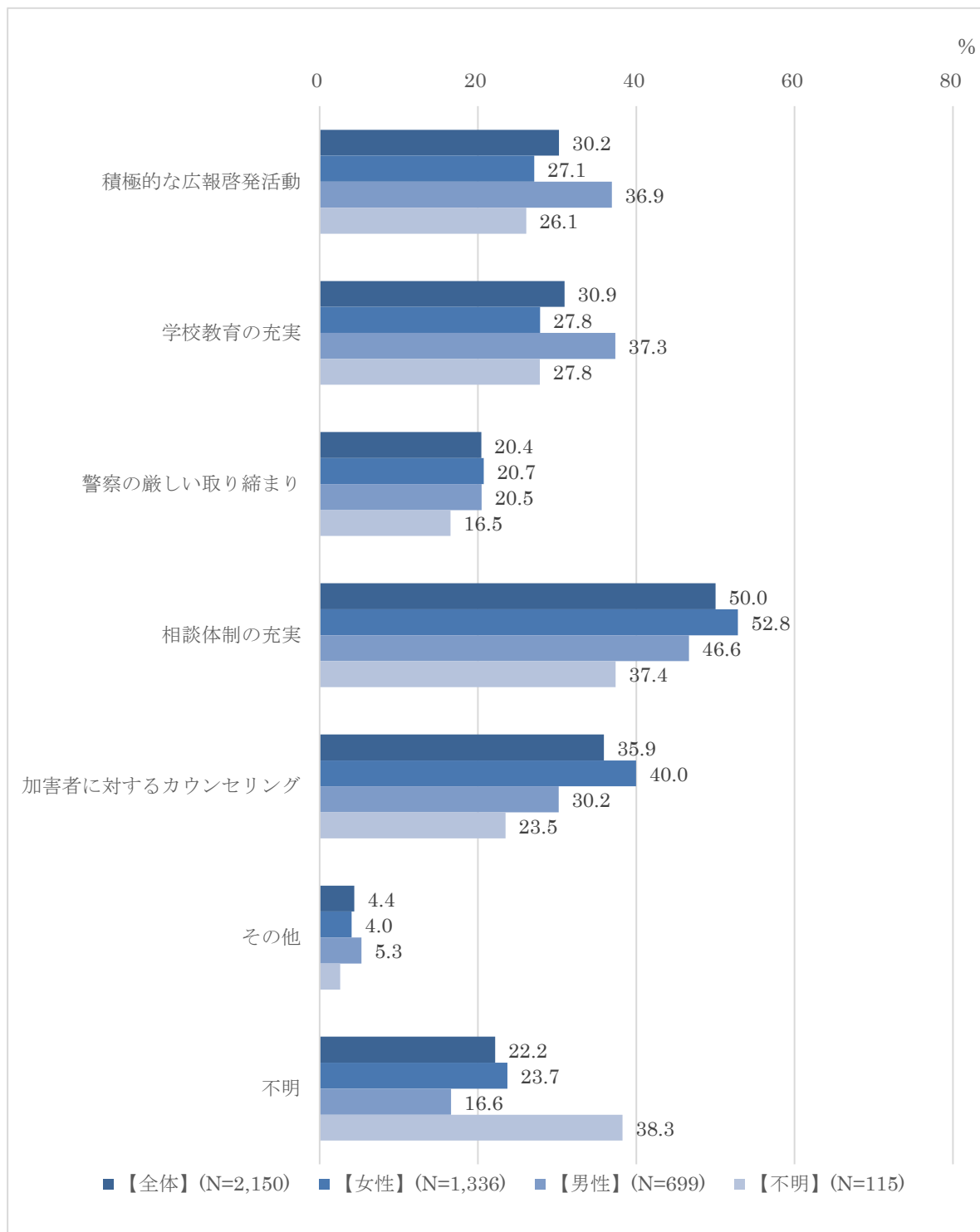
DV被害者支援制度等の認知度（問7／複数選択可）

- DV等の被害者支援のための制度や相談窓口などの認知について、男女とも「ストーカー規制法」（女性 47.2%、男性 59.2%）、「警察署における相談窓口」（女性 42.7%、男性 51.4%）の順に高くなっています。次いで女性は「市町村の相談窓口」（36.6%）、男性は「DV防止法」（46.8%）が高くなっています。
- 「いずれも知らない」（女性 10.0%、男性 9.4%）が男女とも約1割見られます。



暴力を防止し、よりよい関係を築いていくために必要なこと（問8／複数選択可）

- 暴力を防止し、よりよい関係を築いていくために必要なことについて、男女とも「相談体制の充実」（女性 52.8%、男性 46.6%）が最も高くなっています。
- 次いで、女性は「加害者に対するカウンセリング」（40.0%）、男性は「学校教育の充実」（37.3%）が高くなっています。



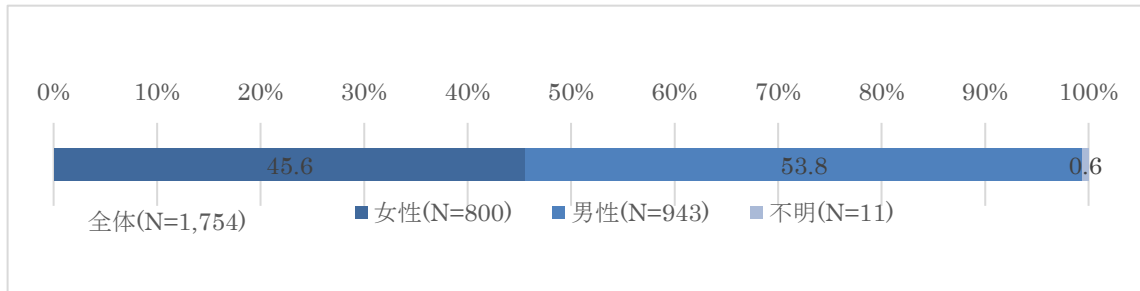
群馬県へのご意見・ご要望（問9）

- ・相談窓口を増やす。
- ・社会とのつながりを失っている家庭へも情報が届くよう取り組んでください。
- ・男性の相談窓口をふやしてほしい。
- ・加害者、被害者へのカウンセリングが必要と感ずます。
- ・各家庭、学校等教育機関との積極的な連携を。
- ・当事者から相談を受け付けられたらまじめにしっかり対応すること（事件にならないと対応してもらえない例が多い）
- ・しっかりとした相談体制をつくり上げていくことが必要
- ・被害者の対応、対策がもっと必要な？（被害者の発見、見つけ出しが難しいと思う）いかに早く見つけ出す事ができる体制にしてほしい。
- ・気軽に相談しやすい環境作り
- ・被害者だけでなく加害者に対する支援も考えるべきだと思う。
- ・DVやパワハラに悩む女性がいることをもっと世間に認知してもらいたい。経済力も仕事もなく立場の弱い母親の味方になってくれる相談窓口をもっと増やしてほしい。
- ・女性の自立ができるような仕事、住宅などを（相談に行ってもあっちの課、こっちの課を回される）時間をかけずに相談できる窓口ができれば良い。
- ・心のケアが大切、子どもの頃からの発達の支援をすることだと思います。
- ・DVは被害者も加害者も自覚のない場合が多いので周りの人が気づき、通報、相談出来るような（当事者以外が相談出来る）窓口やガイドラインがあると良いと思います。
- ・相談しやすい体制がまだ未成熟。「暴力」とは何か？という知識もない人が多いし、啓発、広報にもっと力を入れるべき
- ・高校生へのDVなどの周知、学生はどこに相談したら良いか分からない。
- ・LGBT、配偶者をもつ異性愛者がDVを受けていることがあるので、支援をお願いします。

1. 回答者の属性

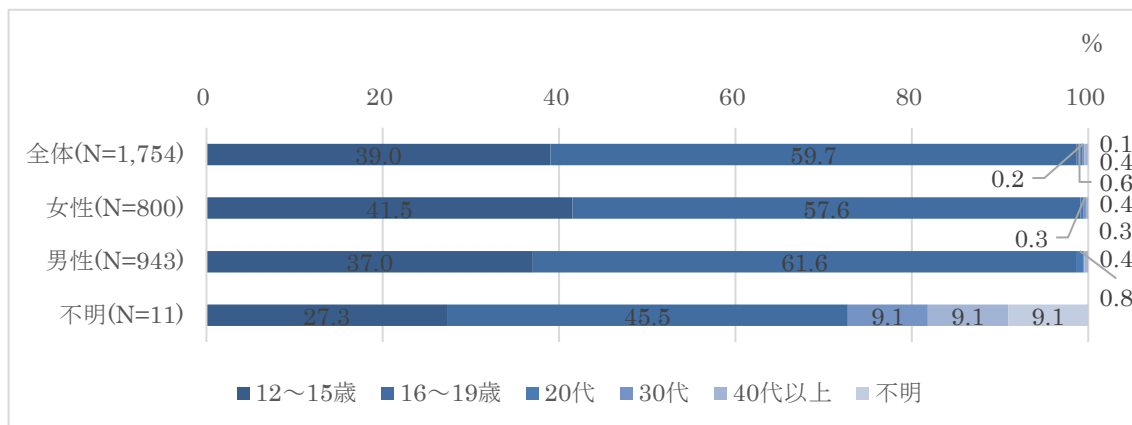
(1) 性別

●性別は、女性 800 人 (45.6%)、男性 943 人 (53.8%)、不明 11 人 (0.6%) となっています。



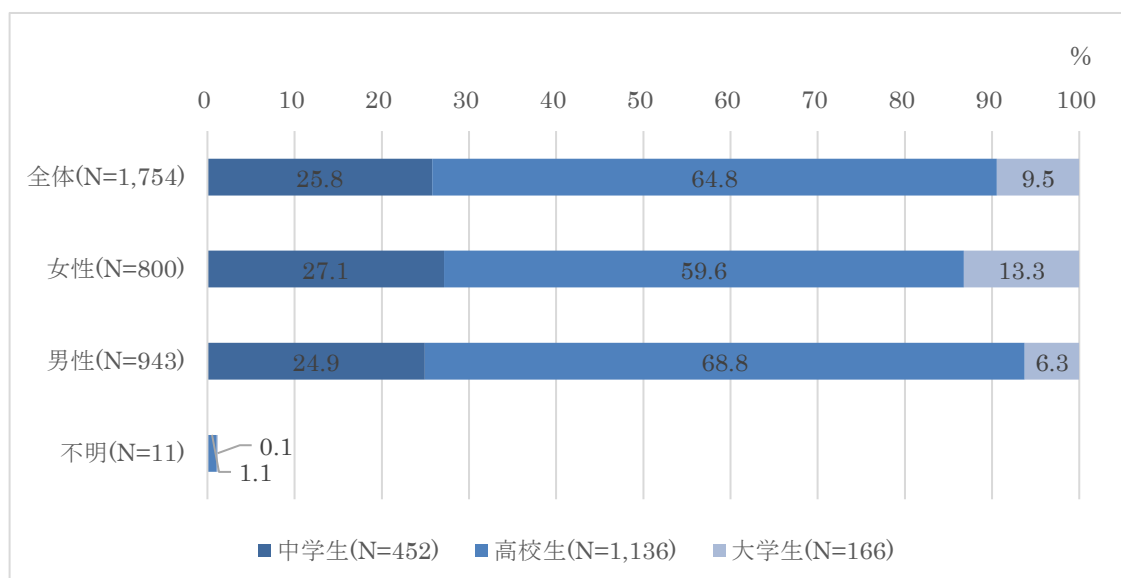
(2) 年代

●年代は、12～15 歳 684 人 (39.0%)、16～19 歳 1,047 人 (59.7%)、20 歳以上 22 人 (1.2%)、不明 1 人 (0.1%) となっています。



(3) 学校

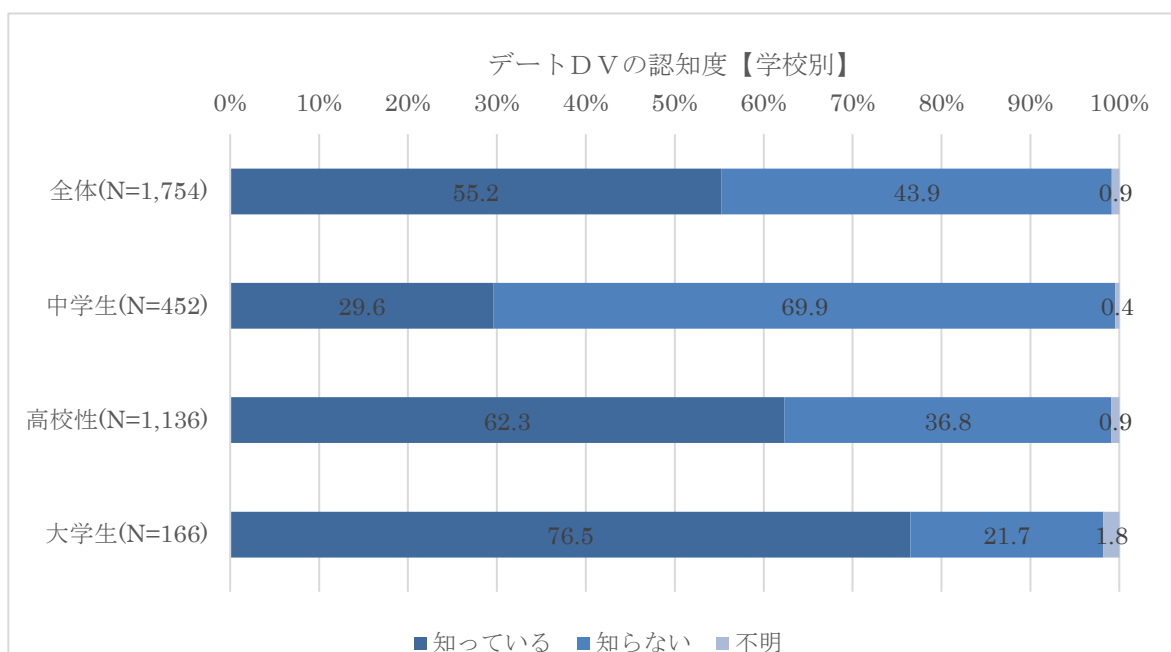
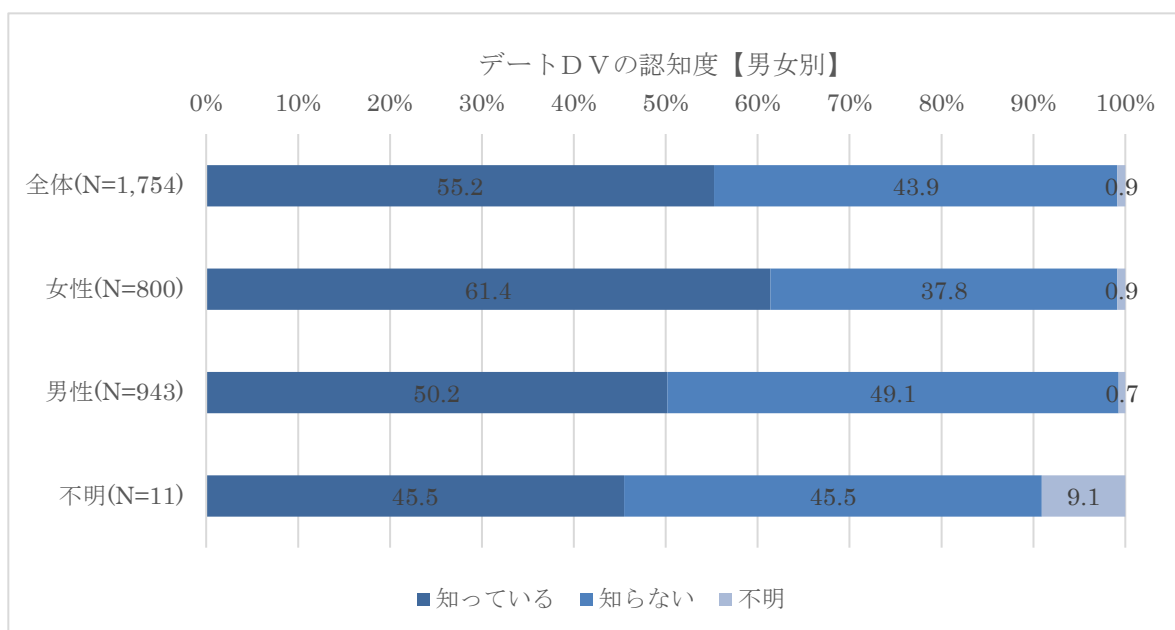
●学校は、中学生 452 人 (25.8%)、高校生 1,136 人 (64.8%)、大学生 166 人 (9.5%) となっています。



2. 調査結果について

デートDVの認知度（問3）

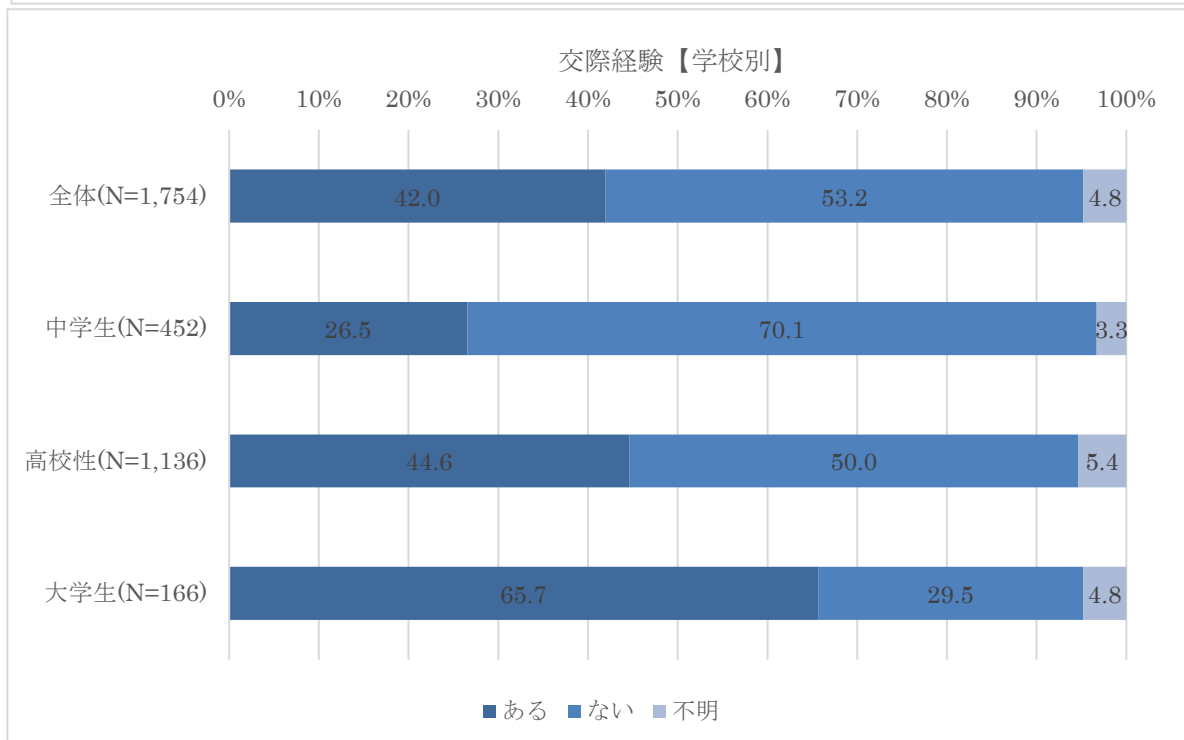
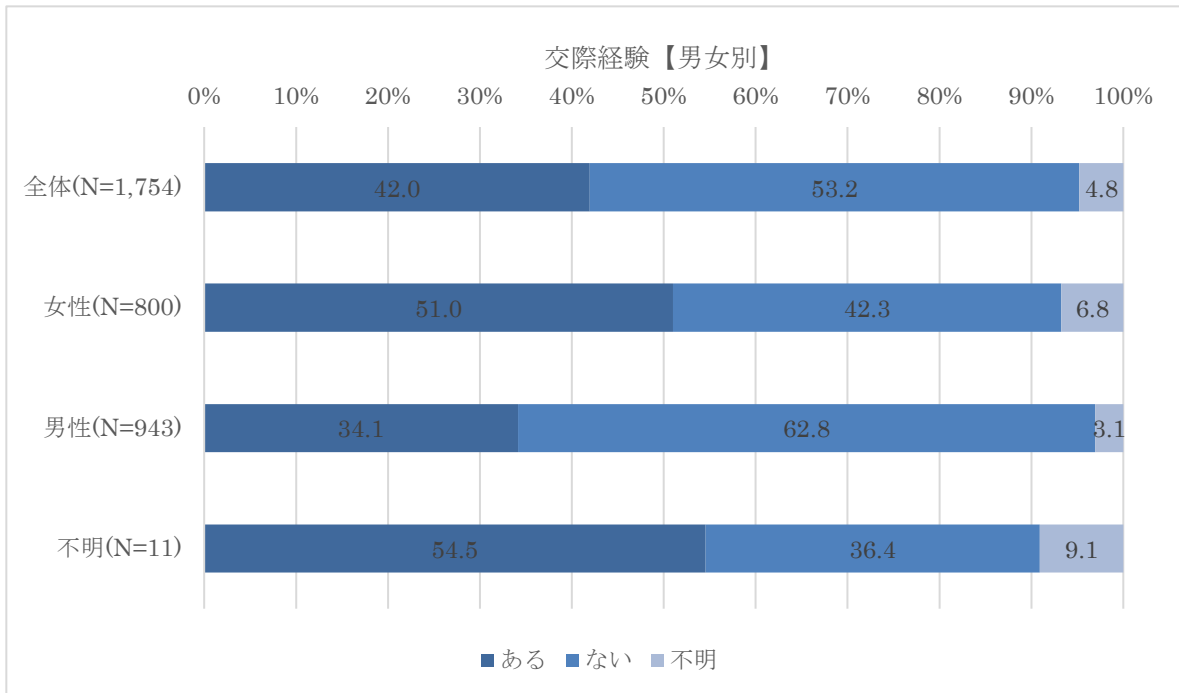
- デートDVのことを「知っていた」と答えた人は、全体の5割以上（55.2%）となっています。
- 性別で見ると、男性より女性の方が知っている割合が高くなっています。（女性 61.4%、男性 50.2%）
- 学校別で見ると、中学生では約7割（69.9%）が「知らなかった」と答えたのに対し、高校生では6割以上（62.3%）、大学生では7割以上（76.5%）が「知っていた」と答えています。



※問4 デートDVについて理解できたか(講座を理解できたかどうかの設問のため省略)

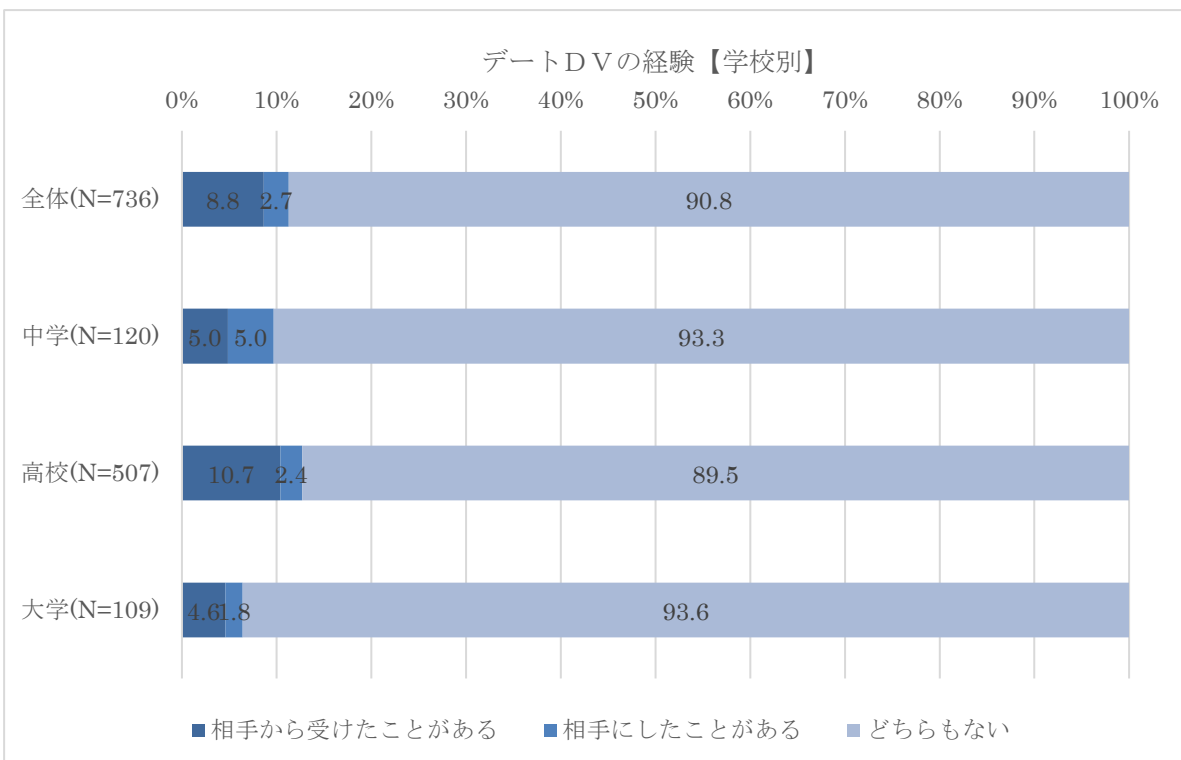
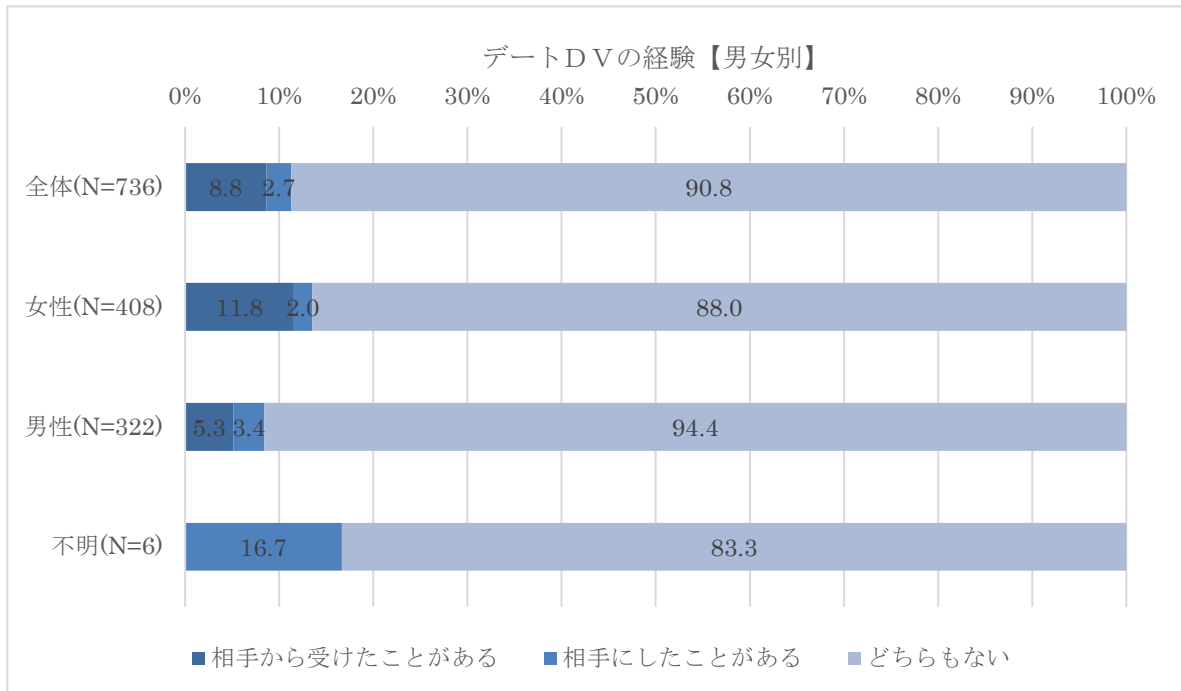
交際経験（問 5）

- 交際経験があると答えた人は、全体の約 4 割（42.0%）となっています。
- 性別で見ると、男性より女性の方が交際経験がある割合が高くなっています。（女性 51.0%、男性 34.1%）
- 学校別で見ると、中学生では約 7 割（70.1%）が「交際経験がない」と答えたのに対し、高校生では 4 割以上（44.6%）、大学生では 6 割以上（65.7%）が「交際経験がある」と答えています。



デートDVの経験（問6）

- 交際経験があると答えた人のうち、デートDVの被害経験のある人は全体の約1割（8.8%）、加害経験のある人は全体の約0.3割（2.7%）となっています。
- 性別で見ると、男性より女性の方が被害経験の割合が高く（女性11.8%、男性5.3%）、女性より男性の方が加害経験の割合が高くなっています。（女性2.0%、男性3.4%）
- 学校別で見ると、高校生が最も被害経験の割合が高く（10.7%）、中学生が最も加害経験の割合が高くなっています（5.0%）。

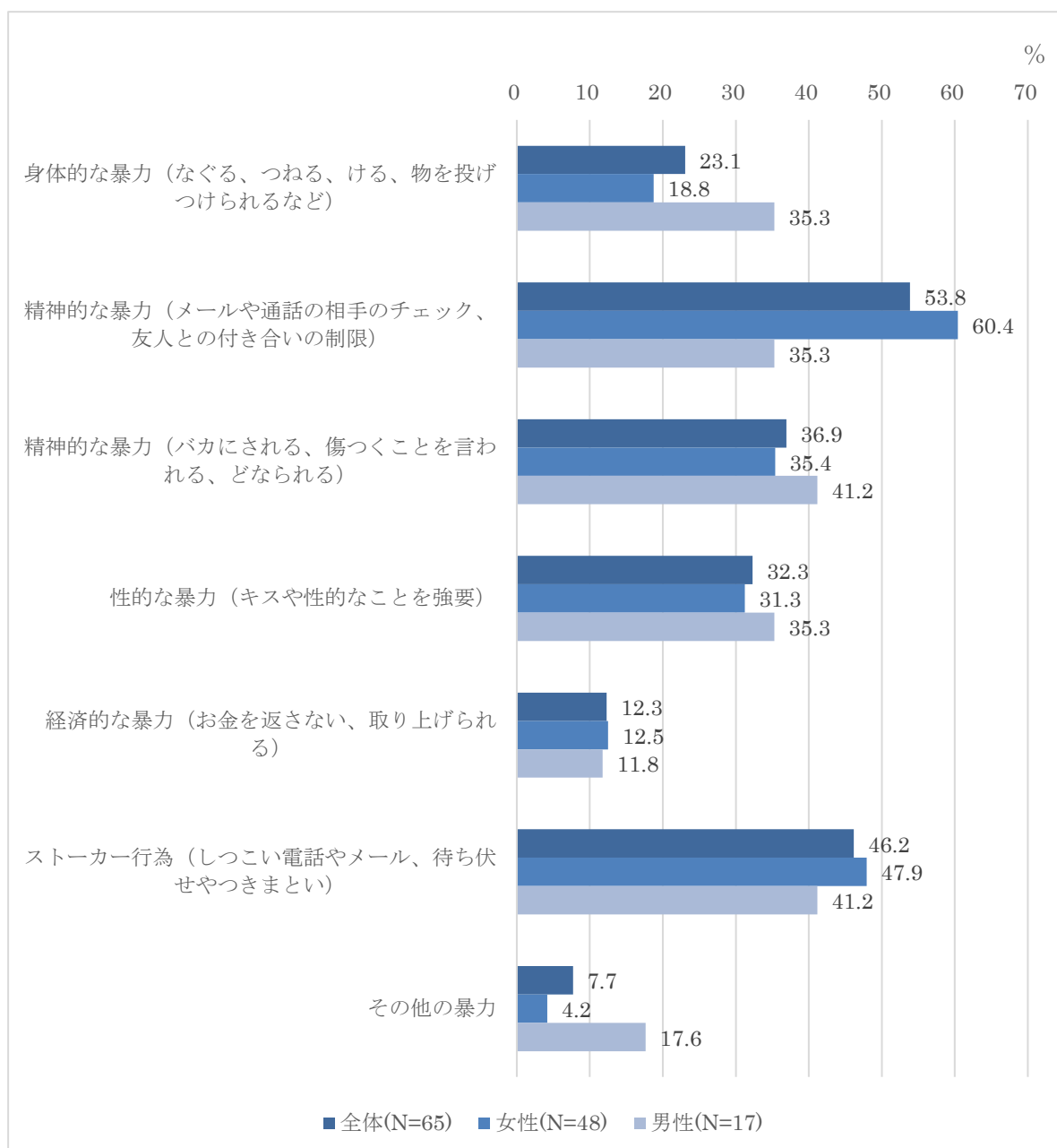


どのようなデートDVを受けていたか（問7／複数選択可）

●全体では「精神的な暴力」（90.7%）が最も高く、次いで「ストーカー行為」（46.2%）となっています。

●男女ともに、「精神的な暴力」（女性 95.8%、男性 76.5%）が最も高く、次いで「ストーカー行為」（女性 47.9%、男性 41.2%）となっています。

※「精神的な暴力」の数値は2つの項目の合計となっています。

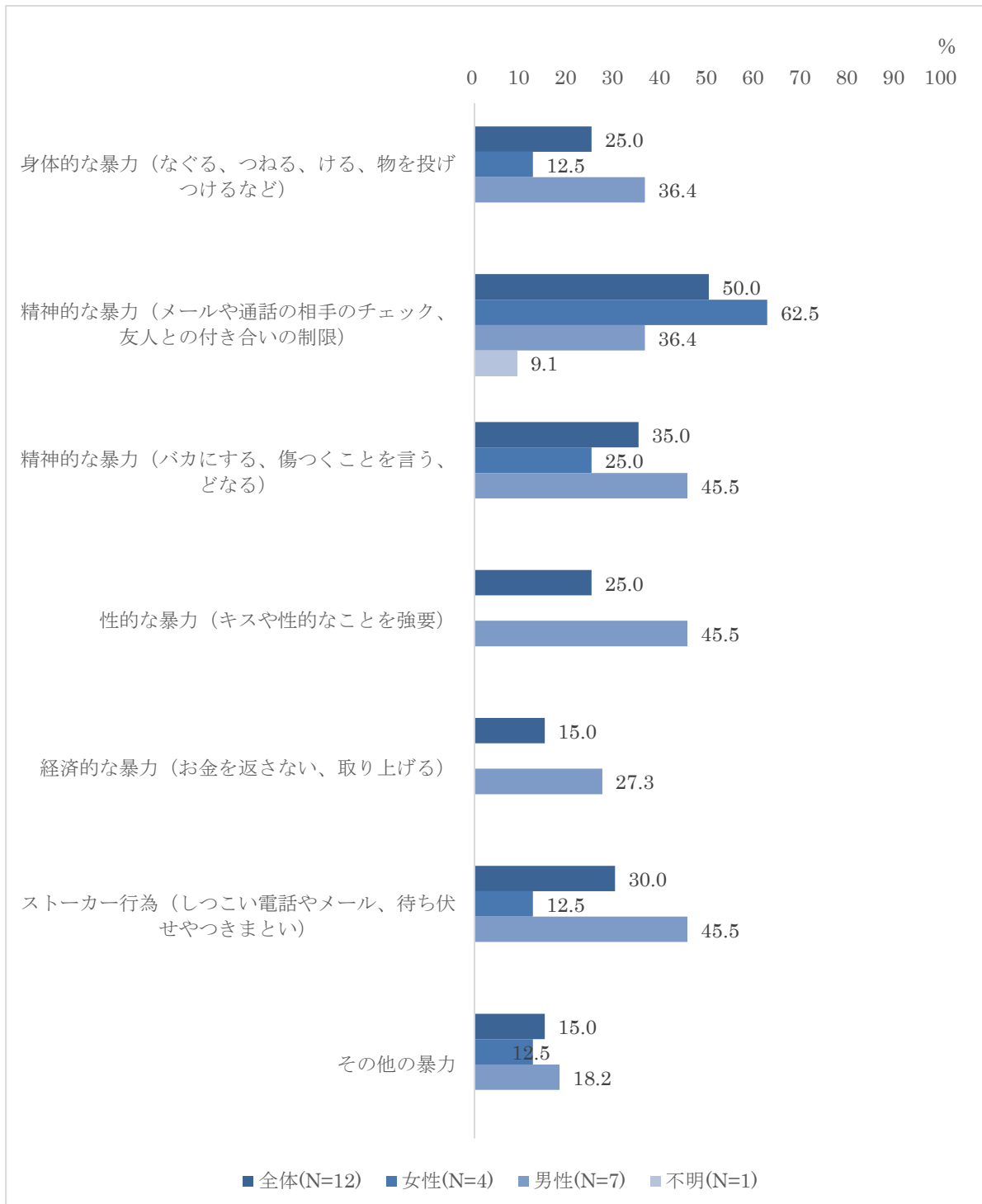


どのようなデートDVをしていたか（問8／複数選択可）

●全体では「精神的な暴力」（85.0％）が最も高く、次いで「ストーカー行為」（30.0％）
「身体的な暴力」「性的な暴力」（25.0％）となっています。

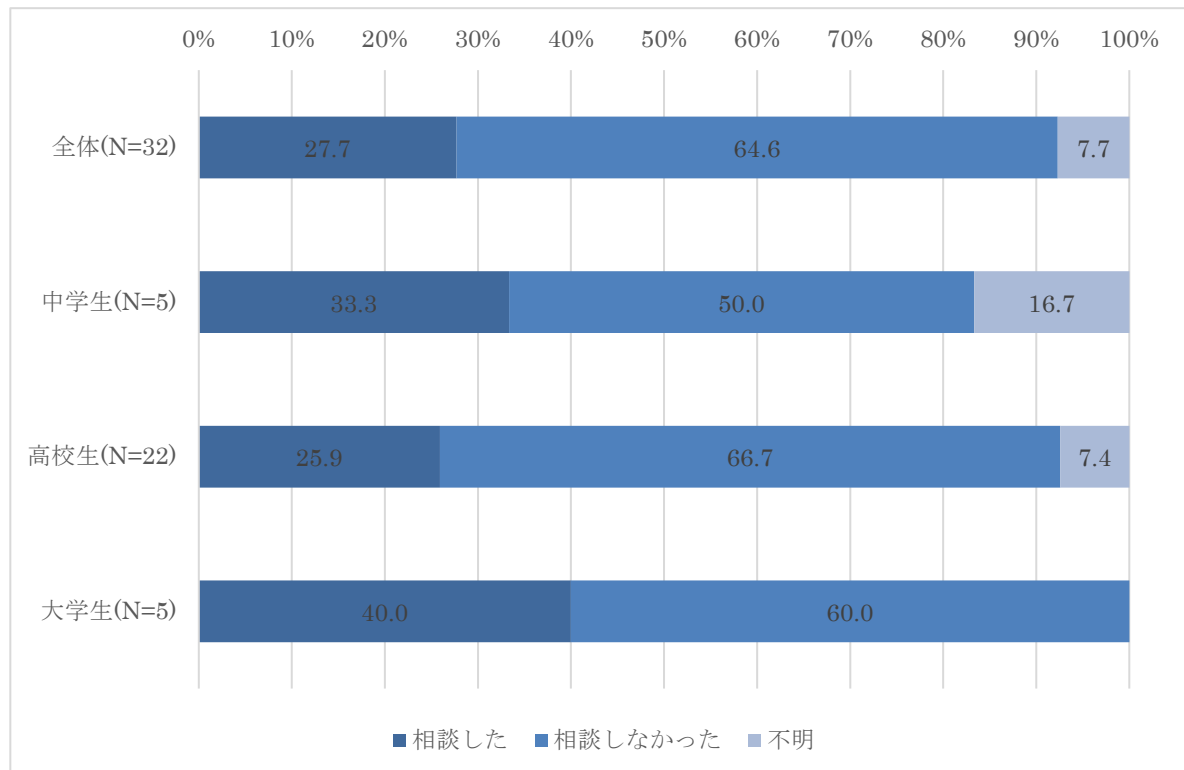
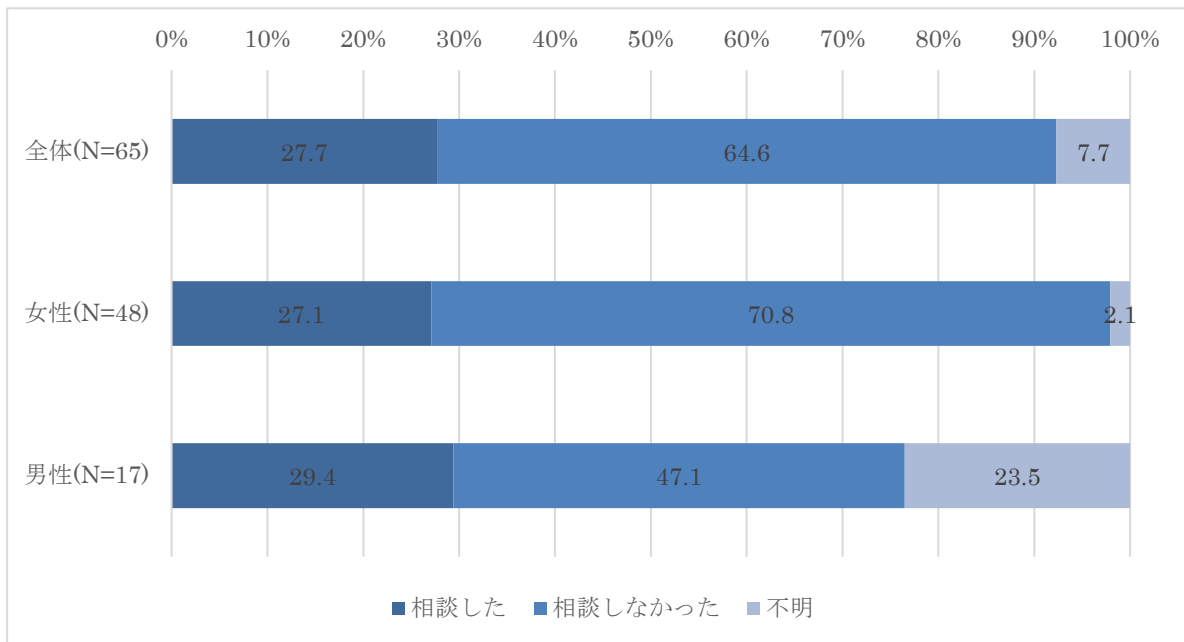
●男女ともに、「精神的な暴力」（女性 87.5％、男性 81.9％）が最も高く、次いで女性
は「身体的暴力」「ストーカー行為」「その他の暴力」（12.5％）、男性は「性的な暴
力」「ストーカー行為」（45.5％）となっています。

※「精神的な暴力」の数値は2つの項目の合計となっています。



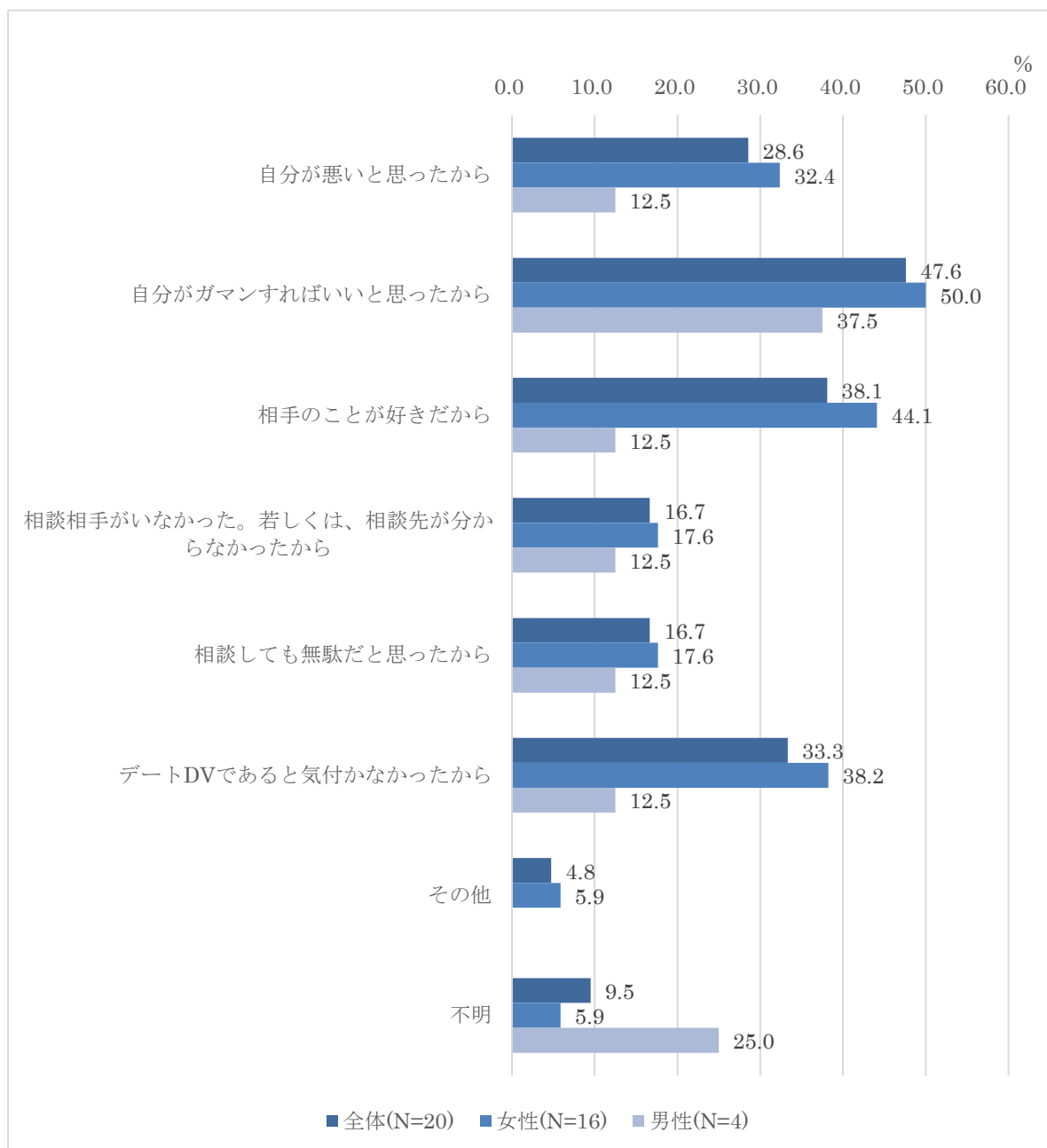
デートDVを受けたとき、相談したか（問9）

- デートDVを受けたとき、誰（どこ）かに相談したと答えた人は約3割（27.7%）となっています。
- 相談先は友人が12名、親、先生が2名、家族が1名、不明が4名でした。
- 性別で見ると、女性より男性の方が相談した割合が高くなっています。（女性27.1%、男性29.4%）
- 学校別で見ると、中学生では3割以上（33.3%）、高校生では約3割（25.9%）、大学生では4割（40.0%）が「相談した」と答えています。



デートDVを受けたとき、相談しなかった理由（問10／複数選択可）

- 全体では「自分がガマンすればいいと思ったから」（47.6%）が最も高く、次いで「相手のことが好きだから」（38.1%）となっています。
- 男女ともに、「自分がガマンすればいいと思ったから」（女性47.6%、男性50.0%）が最も高く、次いで「相手のことが好きだから」（女性38.1%、男性44.1%）となっています。



講座を受けて、どのように感じたか（問 11）

- 相手の気持ちを尊重することが大切だと思った。
- DVには色々な物があり、男らしく、女らしくではなく、自分らしくいることが大事なのだなと思いました。
- とてもDVについて理解することができました。私の母も父に精神的DVに似たようなことをされていたので、本当にあってはならないものだと思い知らされました。
- デートDVのことが良く分かった。もし私がデートDVを受けたら、自分の気持ちを素直に言うことが大切だとわかった。
- 女子や男子のイメージを押しつけてはいけないと思いました。
- 女子から男子へのデートDVもあるんだなと思いました。
- DV、デートDVについてよく知ることができた。暴力には身体的なものだけでなく、精神的なものだったり、社会的、経済的暴力など様々な種類があることがわかった。
- 「自覚のない間にデートDVになっていた…」ということがあった。
- 小さい頃の環境が大きく関係していることがよく分かった。やはり、親の姿を見て育つ子供はかわいそうだと思った。
- 自分の考えがいかに浅はかだったのかわかった。昔から女性は社会的地位が低く、男性にしいたげられてきたので、女性や子どもが尊重される世の中になってほしいと思った。
- DVという言葉は聞いたことはあったけど、デートDVという言葉の意味は初めて知りました。今、世界各地でこのような現状が起きていることをしっかりと受け入れたいです。
- 被害者にも加害者にもなる可能性はだれにでもあるので、本当に気をつけたいと思った。
- 身近にたくさんのDVや虐待があると知って少し怖くなった。加害者の罪の意識がないことにショックをうけた。
- 今は付き合い合った人はいないけど、これから誰かと付き合うときがあったら、暴力をしない、いじわるをしない！相手にも言おうと思います。
- 私の母は父に暴力を受けていて、6年前に離婚しました。母は元々明るい性格でしたが、別れてからは更に明るくなりました。私の母の場合は学生の頃にソフトボールをしていて、筋肉と体力があったのでまだ良かったですが、もっと細い女性だったらきっと父に殺されていたと思います。離婚して正解だなどはつくづく思うのですが、母子家庭だと今度は貧困問題があり、大変です。やはり女性は男性ほど稼げないようなので、もっと改善してほしいです。
- デートDVを受けていてもそれを暴力ではなく、愛と勘違いしてしまうかもしれないのが怖いなと思った。好きな人が対象だとフィルターがかかってしまって、気づくのが遅れてしまうのだと思う。幸い、今までお付き合いした人からDVを受けたことはないので、これからデートDVがあるということを意識して、自分だけではなく、友人にも気づけるようにしたい。
- 女性がいま社会進出が進む反面、なかなか社会の風潮というのは、変わらないなんだと思った。大学ではあまり男女のちがいを（ジェンダーバイアスがかかっていると）感じることは少ないけど、お話をきくことで周囲で困っている人がいたらDVの可能性に気づかせられるといいと感じた。